

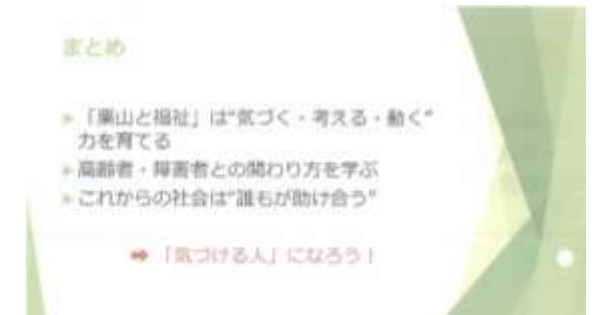
【タイトル】 栗山と福祉

～オリエンテーション～

【授業概要】

日	時	令和7年4月18日（金）	13:20～15:10
場	所	北海道栗山高等学校	
対	象	北海道栗山高等学校1年生（36名） 2年生（49名）	
担	当	北海道介護福祉学校 専任教員	
テ	ー	栗山と福祉3年間の流れ、高齢者・障がい者の理解	
ス	ケ	13:20～15:10 【講義】	
使	用	【北海道介護福祉学校備品等】	
		パソコン	
		【栗山高校借用物品等】	
		モニター、プロジェクター	

【資料一部抜粋】

【その他】

本校教員のオリエンテーション後、2年生の代表生徒が1年生の時の「栗山と福祉」の学びについてパワーポイントにまとめたものを1年生にむけて発表していた。

【タイトル】 栗山と福祉

～歩行介助と車いす介助～

【授業概要】

日	時	令和 7 年 8 月 22 日（金） 13：20～15：10
場	所	北海道介護福祉学校
対 象 者		北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）
担 当 者		北海道介護福祉学校専任教員
テ ー マ		介護が必要な人に対する関わり方を理解するとともに、日常生活の中の身体動作を補うための、杖歩行や車いす等の手段を用いた介護を体験し、それらの基礎的要素を学ぶ。
スケジュール	13：15	介護福祉学校到着
	13：20	講義（205） ①介護のイメージと「介護」の捉え方 ②コミュニケーションと介護に向けての心構え ③姿勢と動作 ～ 私たちが行っている動作 ④介護が必要な高齢者の主な身体的特徴（歩行を例に） ⑤杖の種類と歩き方・支え方
	14：10	休 憩
	14：20	演習（講堂） ①車いすの機能と基本操作（自走・介助） ②路面に応じた移動方法 ③移動における留意点
	15：00	まとめ ①本日のリフレクション（質疑・気づき） ②次回の授業について（外出演習）
	15：10	介護福祉学校出発
使 用 物 品		【北海道介護福祉学校備品等】 車椅子 16 台、段差のセット（段差、スロープ、砂利道）T 字杖、多点杖 ロフトランド杖、松葉杖

【留意点】

体験を通して気づく大切さ

- ①自分とは違う他者の気持ちを理解することは容易ではない。
- ②相手と接し、話を聴くことで、その人の気持ちを汲み取る。
- ③自らが介護を必要とする人を疑似体験することで考える契機に。
- ④介護を必要とする人との信頼関係をつくるための心構えを養う。

【資料一部抜粋】

『介護』が必要となった原因は？ 介護が必要となった主な原因の構成割合  厚生労働省「高齢社会基礎調査」(2011年)	体験を通して気づく大切さ - 自分とは違う他人の気持ちを理解することは容易ではない。 - 相手と接し、話を聞くことで、その人の気持ちを汲みとる - 自らが介護を必要とする人を疑似体験することで考える契機に - 介護を必要とする人との信頼関係をつくるための心構えを養う
体験を通して気づいた「利点」、「疑問」点は？ (1) 自ら車いすを操作してみて (2) 車いす移動の介護を受けてみて (3) 車いす移動の介護を行ってみて	車いすの自走・移動の介護体験 

【タイトル】 栗山と福祉

～車椅子で栗山駅周辺に外出～

【授業概要】

日	時	令和7年8月26日(木)	8:45~12:35
場	所	北海道介護福祉学校、くりふと、栗山駅、カルチャープラザ Eki、駅前通り	
対	象	北海道栗山高等学校1年生(36名) 北海道介護福祉学校1年生(23名) フィンランド留学生(2名)計 61名	
担	当	北海道介護福祉学校専任教員、高専連携支援員	
内	容	車いすを使用した外出を通して、「栗山のまち」を当事者、介護者の視点をもって、介護方法を学ぶとともに、社会参加の重要性を広く学び、考える機会とする。	
スケジュール		9:00 合同講義・説明 ・外出する目的、外出にあたっての注意点、混合グループ顔合わせ 9:30 車いす積み込み(16台) 9:40 北海道介護福祉学校学生 栗山高等学校生徒 介護福祉学校出発 9:50 栗山駅南側駐車場到着 車いすを下ろす 車いすの開閉および操作法の確認(グループ別) 移動ルートと説明と留意事項(全体説明) 10:00 車いすでの移動散策 開始 Aルート Eki→駅前通り→栗山駅南公園→くりふと(休憩)①~⑧G Bルート 栗山駅南公園→Eki→駅前通り→くりふと(休憩)⑨~⑯G 11:15 車いす積み込み 北海道介護福祉学校学生 栗山高等学校生徒 南側駐車場出発 11:25 北海道介護福祉学校到着 11:45 グループ別の振り返り(10分間のリフレクション) 演習を終えての気づき・疑問 12:20 終了	
使用物品		【北海道介護福祉学校備品等】 車椅子16台、空気入れ2台	

【留意点】

この体験を通して何を学ぶのか

- ①高齢者の気持ちになって必要なことは何か?
- ②介護者の気持ちになって必要なことは何か?

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

＜ 高齢者にとっての外出の目的 ＞ 	＜安全のポイント＞ 必ず声をかける！ ・停車時は両ブレーキをかける ・フットサポートに足を乗せ深く座る ・アームサポートにしっかりと指まる ・傾斜のある下りは、後ろ向きで降りる ・段差を越えるときは、ディッピングレバーを踏みキャスタを上げる 
--	--

【授業の様子】



【備考】

1. 外出先での流れ

- ・北海道介護福祉学校学生 1～2 名＋栗山高等学校学生 2～3 名でグループを作る（全 16 グループ）
- ・介護学生が筆頭となり車椅子の操作方法を指導
- ・半数ずつに分かれ、それぞれAルート、Bルートに沿って公共の場を車いすで移動する体験
案内・観察・介護者・利用者役にて実施体験（スポット毎役割交代）
- ①～⑧G（北海道介護福祉学校専任教員）、⑨～⑯G（高専連携支援員）、がそれぞれ付き添う

2. 栗山公園に行くうえでの注意点

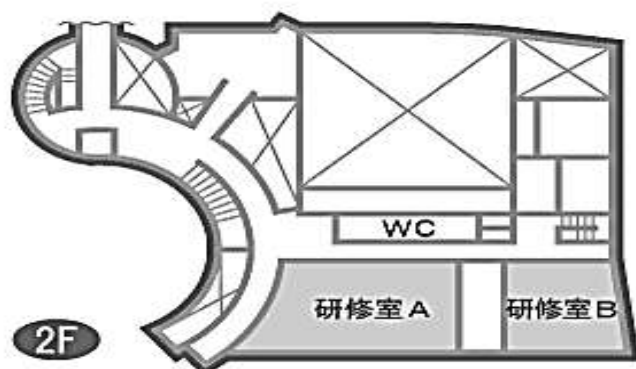
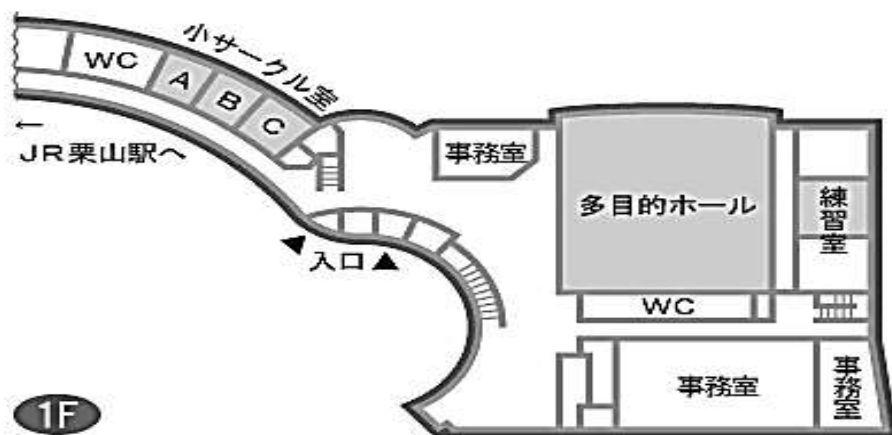
- ・事故やトラブルが無いよう、安全面での介護を最優先で行う。
- ・他の来園者の移動の妨げにならぬよう、整列と前後の車間距離を保ちながら移動する。

【車いすでの散策ルート】 ※雨天、荒天時は変更あり

① 栗山駅 ※ホームには入りません。



② カルチャープラザ Eki



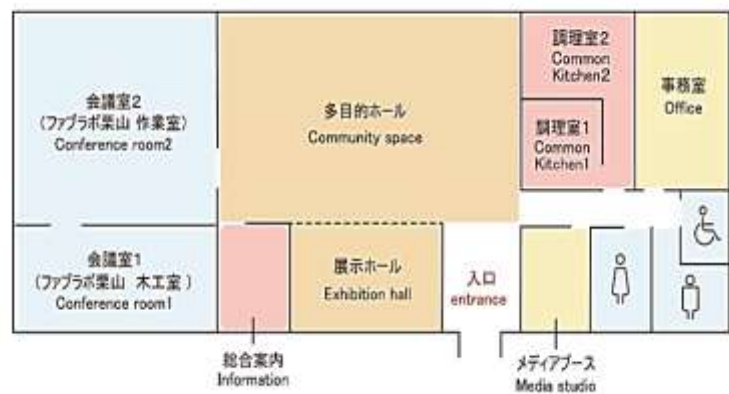
③ 栗山駅南公園 ※スケートボードパークには入りません。



健康遊具（３種類）

- ① わき腹のばし ② 背のばしベンチ ③ マッサージベンチ

④ 栗山駅南交流拠点施設 栗山煉瓦倉庫くりふと



⑤ 駅前通り



【タイトル】 栗山と福祉

～車いす再発見プロジェクト～

【授業概要】

日	時	令和7年9月9日（火）	13:00～14:30
場	所	北海道介護福祉学校	（205 教室）
対	象	北海道栗山高等学校1年生（36名） 北海道介護福祉学校1年生（23名）	計 59名
担	当	者	外部講師、北海道介護福祉学校専任教員、高専連携支援員
内	容	車椅子エバンジェリストが、シーティングの基本知識や活用事例、車椅子に関わる人たちの思いなどを、最新モデルの車椅子とともに紹介	
スケジュール	12:50	栗山高等学校1年生 北海道介護福祉学校到着	
	13:00	講話	
		・車椅子を使う人のイメージについて	
		・車椅子を使用している当事者の実体験紹介	
		・実際に最新の車椅子と旧型の車椅子を比較してみる	
		・具体的なシーティングの効果と車椅子の使用方法	
	14:30	終了	
		栗山高等学校1年生 北海道介護福祉学校出発	
使用物品	【北海道介護福祉学校備品等】 モニター、車椅子(最新)2台、(旧型)2台		

【授業の様子】



【備考】

授業後栗山高等学校は感想シート、北海道介護福祉学校はレポートの提出をもって感想を集計している。

栗山高等学校感想【一部抜粋】

・病気で車いす生活をしていてしたいことを諦めている人がいる。自分に合った車いすを選ぶと自信を持つことができる。普通の車いすは座りずらかったり、足・背中・腰が痛くなる。

・ロック 1 つかけるだけで、老人の転倒・転落の事故を防げることがわかった。

今の車いすは結構進化していた。

車いすの細かいことまで世に知れ渡っていないことが分かった。

・人が見て大変だとか勝手な見方で困らせていることもあると思いました。

・昔の車いすを使い続けなくて、その人に合った車いすを乗せてあげることで負担をなくすこともできるとわかった。

買うだけではなくて貸し出しもしていると分かった。

座り方を変えてあげるのも負担を軽くしてあげられる 1 つの方法だとわかった。

北海道介護福祉学校感想【一部抜粋】

・専門職だからといって車いすの知識を身に着けるのではなく、身の回りの大切な人を守り、自分らしく生きてもらうために、職業関係なく人皆車いすの知識を身に着けることの大切さを知りました。

・車椅子を「歩けないから使うもの」と思っていた部分があった。しかし、その言葉を聞き、車椅子はその人の生活を制限するものではなく、むしろ自分らしい生活を可能にし、行動の幅を広げてくれる大切な存在なのだと実感することができた。

・車椅子使用に伴う四つのリスクについても知ることができました。一つ目は痛みや褥瘡の発生要因となること、二つ目は食事や水分摂取における誤嚥や摂食障害の危険性があること、三つ目に転落や転倒の可能性があり、その際にはキャスターの向きを外側にすることで安全性を高められることを理解しました。四つ目は介助者側のリスクがあり、不適切な介助方法は二倍から三倍の身体的負担につながることも学びました。

・車いすは、体の不自由な方が使用し、少し不便なものだと認識していたが、正しい座位や体に合ったものを選ぶことで、ものすごく便利な道具になるということが今回の講義で理解することができた。

【タイトル】 栗山と福祉
～パラスポーツ体験～

【授業概要】

日	時	令和7年11月14日（金）	13：20～15：10
場	所	栗山スポーツセンター	
対	象	北海道栗山高等学校1年生（36名） 北海道介護福祉学校1年生（20名）、2年生（21名）	計 77 名
担	当	者	NPO 法人 あ・りーさだ
テ	ー	マ	地域共生社会におけるパラスポーツ等を体験する
ス	ケ	ジ	ュ
ュ	ー	ル	
		13：20	講話：パラスポーツの必要性
		14：00	体験開始
			①パラスポーツに使用する車椅子
			②シッティングバレー
			③フライングディスク
			④ボッチャ
			4グループに分かれ15分毎交代
		15：00	体験終了
			質問・感想
使	用	物	品
			【北海道介護福祉学校備品等】
			スクリーン プロジェクター PC
			【栗山スポーツセンター備品等】
			マイク、コーン10個

【授業の様子】



講話



シッティングバレー



車椅子体験

【備考】

目的

- ①共生社会を目指す視点で誰もが共に楽しめるスポーツを知る
- ②パラスポーツを体験し、障がい者スポーツの実際を学ぶ

【タイトル】 栗山と福祉

～現場の介護職員の話～

【授業概要】

日 時	令和7年11月18日（金） 13:20～15:10
場 所	北海道栗山高等学校 視聴覚室
対 象 者	北海道栗山高等学校1年生（36名）
担 当 者	北海道介護福祉学校 専任教員 高専連携支援員
テ ー マ	介護現場の話を聞いて多様な職種の関わりから自身のキャリア形成を考える
スケジュール	13:20 介護福祉士として働いてきた話 14:10 休憩 14:20 社会福祉士として働いてきた話 15:10 終了
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 PC 【栗山高校借用備品等】 モニター HDMI ケーブル

【資料一部抜粋】

なぜ介護の仕事を選んだか 1 就職浪人しなかった 2 資格がある仕事だった 3 人と関わる仕事が良かった	老人保健施設の役割 老人保健施設とは… 高齢者が病院から自宅に戻る前に、 リハビリや介護を受けながら生活を整えるための施設 医療と介護の両方を サポートするのが大きな役割
少子高齢社会とは 少子化 + 高齢化 = 少子高齢社会 少子高齢社会(しょうしこうれいしゃかい)とは、 社会全体で、「少子化」と「高齢化」が同時に進行すること - 少子化～子どもの数が少なく、全人口に占める割合が少ない - 高齢化～高齢者の数が多く、全人口に占める割合が多い	目標と目的を明確にしてみよう 最初の第一歩は… 確約(約束) 目標の明確化 → 自分の「生き方」を考えてみる 人生設計を 思い描くこと 何のために生まれて、 何をして生きるか、 やなせ、おかし 「勤労観・職業観の形成」にとどまらず、 「社会的・職業的自立のために必要な自己の確立」 を目指す！

【授業の様子】



【備考】

介護や福祉の現場における仕事としての考え方や、働き方、将来的に知識として持つべき視点などを
実体験をもとに講義を展開した。

【タイトル】 栗山と福祉
～自治体の福祉計画～

【授業概要】

日	時	令和 8 年 1 月 27 日（火） 10：45～12：35
場	所	北海道栗山高等学校 視聴覚室
対	象	北海道栗山高等学校 1 年生（36 名）
担	当	栗山町役場 福祉課職員 2 名
ね	ら	い
		①知る 栗山町の福祉に関するデータ・課題を知り、その課題に対し、町役場が どのような取組(施策)を進めているかを理解する。
		②つくる 演習(グループワーク)を通じ、住民の困り事やニーズから解決策を 考える、計画づくりのプロセスを体験する。
		③感じる 公務員の仕事が、町民の安心や生活にどう関係しているのか、その 一端を感じてもらう
スケジュール	10：45	オリエンテーション データと写真から福祉計画を知る ・高齢者福祉について ・ケアラー支援について まとめ
	11：30	休憩
	11：40	福祉計画を立案してみよう(演習) 演習のまとめ
	12：35	終了
使用物品		【栗山町役場】 模造紙 6 枚 付箋 6 冊 マジックペン 6 セット PC 【栗山高校借用備品等】 モニター HDMI ケーブル

【資料一部抜粋】

私たち福祉課の仕事

- 保育・子育て支援
- 障がい者福祉
- **高齢者福祉** 介護、介護
の仕事
 - 介護保険サービス
 - 介護予防
 - 高齢者の暮らしの支援
 - ケアラー支援 など
- 地域医療 など



令和7年度「栗山と福祉」2026/1/27

数字から知る栗山町と高齢者福祉

在宅サービス	地域生活圏サービス	施設サービス
 福祉利用で高齢者を 養育するサービス	 市内指定地域に住民福祉員が 活動するサービス	 施設に入居した人に 提供されるサービス
訪問介護 訪問看護 居宅介護 福祉サービス （介護サービス）（介護予防） 福祉利用で高齢者を 養育するサービス	地域生活圏サービス 福祉利用で高齢者を 養育するサービス 小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設（老人ホーム） （特別養護老人ホーム） 介護老人保健施設（老人ホーム） 介護療養型医療施設（老人ホーム） 介護福祉士養成施設

令和7年度「栗山と福祉」2026/1/27

数字から知る栗山町と高齢者福祉

一人暮らしの高齢者の不安や困りごととは？

過去の調査結果などから…

①急な病気（健康）	②経済・福祉の困窮
③日常の家事・買い物	④経済的な心配
⑤孤独・孤立	⑥認知機能の低下
⑦詐欺、犯罪被害	(65歳以上の約38%)

令和3年度「暮らしの困りごと」調査結果

まとめとして…

まちの計画（仕事）とは…

- 1 町の実態、町民の困り事、ニーズなどから始まる
- 2 役場の想いや、行動力も大事
- 3 町民と共に考え、解決すること

令和3年度「暮らしの困りごと」調査結果

【授業の様子】



【備考】

演習詳細

できることのテーマは3つ

1. 居場所づくり(カフェでの交流を充実させる)
2. ボランティア(みんなができるボランティア)
3. ヤングケアラーのクラスメイトに何ができるだろうか？

6人1グループで進めます。まずは、司会と書記と発表者をそれぞれ決めてください。書記は、模造紙を次のスライドのとおり書き出してください。

できること(活動)は校内でも校外でもどちらでも構いません。

模造紙の書き出し

テーマ
フリント

アイディア
プラン

ヒントワード

①人・動物 ケアラー ヤングケアラー 高齢者 障がい者 高校生 中学生 小学生 先生 子ども 親 友だち 動物(ペット) 仲間 クラスメイト	②場所 学校 校内 校外 委員会 部活動 カフェ(ケアラーカフェ等) 図書館	③手段・方法 新聞 ホームページ 動画配信 (YouTubeなど) SNS(インスタなど) 本 雑誌 手紙 おたより タブレット スマホ 手ケット カード
④活動・行動 交流 ボランティア レクリエーション 遊び 会(委員会など) 子育て 介護 障害 クッキング 運動(スポーツなど) 体験 勉強 映画 イベント(行事) 音楽 見守り 声かけ おいさつ 相談 お手伝い お世話	⑤言葉 悩みごと 困りごと 相談き 言葉に 楽しい 秘密 リフレッシュ 元気 暑 夏 秋 冬 プライベート おいしい 食べる 健康 元気 笑顔 笑い	

※ヒントワード以外に思いつくものがあれば書き出して構いません！

ステップ3 プランとプランタイトルの決定(17分)



- 司会が中心になり、気になった「ヒントワード」を組み合わせることができかどうか、みんなで考えます。どれが組み合わせることができるかなどメンバーに意見を求めます。
- 「ヒントワード」を全部使わなくても構いません。
- 「ヒントワード」が足りないなど、後から付け加えても構いません。
- 出てきたプランを書記は「プラン」の欄に記入します。
- 複数ある場合は、1つに絞ります。
- ケアラーが難しい場合は、対象をケアを受けている人(高齢者・障がい者)にしても構いません。

6 グループに分け、3 つのテーマをそれぞれに割り当て、ヒントワードを元に模造紙に付箋でキーワードを貼っていく。そこからプランを考えていき、プランの詳細からタイトルを決め各グループ発表していく。

【タイトル】 栗山と福祉

～移動をたすける福祉用具の体験～

【授業概要】

日	時	令和 8 年 2 月 9 日（月）	13：20～15：10
場	所	北海道介護福祉学校	205 教室 講堂
対 象 者		北海道栗山高等学校 1 年生（36 名） 北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）※講義のみ合同	
担 当 者		南幌みどり苑 佐久間施設長 北海道介護福祉学校 専任教員 高専連携支援員	
目 的		①福祉用具は誰の、何のためのものなのか考えてみる ②体験を通して、使う人にとってどのような目的や効果があるのかを考えてみる ③これから私たちにできることは何かを考える	
スケジュール	13：20	講義 「福祉・介護の ICT 化」	佐久間施設長
	14：10	10 分休憩	
	14：20	福祉用具体験	
		①電動アシスト歩行車・多機能歩行車 ②モジュール型・リクライニング車椅子 ③室内用歩行器・交互型歩行器 ④電動車椅子	
	15：00	本日のまとめ	
	15：10	終了	
使 用 物 品		【北海道介護福祉学校備品等】 モニター PC HDMI ケーブル マイク 長机 2 台、リクライニング車椅子 2 台、モジュール型車椅子 2 台 多機能歩行車 2 台、自動アシスト歩行車 2 台、室内用歩行器 2 台、 交互型歩行器 1 台、電動車いす 2 台、スロープ 2 台、コーン 12 個	

【授業の様子】



講義



体験説明



体験



体験

【講堂】

